

確率統計 A

第 2 章 確率変数と分布 (Part 4)

(2012 年 5 月 22 日)

講師:若木宏文

E-mail: wakaki@math.sci.hiroshima-u.ac.jp

Web: <http://home.hiroshima-u.ac.jp/~wakaki/lecture/probstatA12/>

確率統計 A, 2012年5月22日: P.1

2.5. 離散型・連續型分布

2.5.1 1次元の場合

確率統計 A, 2012年5月22日: P.2

連續型確率変数と確率密度関数

身長, 温度, バスの待ち時間などのように連続する値をとる場合を考える。すなわち, X のとりうる値は実数全体のある部分集合であるとする。とくに, X の分布関数が

$$P(X \leq x) = F(x) = \int_{-\infty}^x f(t)dt, \quad \forall x \in \mathbb{R}$$

と表せるとき, **連續型確率変数 (Continuous Type Random Variable)** といい, その確率分布を**連續型分布**という。また, \mathbb{R} 上の関数 $f(x)$ を**確率密度関数 (Probability Density Function, pdf)** という。

確率統計 A, 2012年5月22日: P.3

確率密度関数の性質

先の定義において,

$$P(a < X \leq b) = \int_a^b f(t)dt,$$

であり, $f(x)$ の連続点で

$$\frac{d}{dx} F(x) = f(x),$$

が成立する。定義から確率密度関数は次の性質をもつ。

$$[1]. f(x) \geq 0, \quad \forall x \in \mathbb{R}$$

$$[2]. \int_{-\infty}^{\infty} f(t)dt = 1$$

確率統計 A, 2012年5月22日: P.4

一様分布

一様分布 (Uniform Distribution)

確率密度関数が

$$f(x) = \begin{cases} \frac{1}{b-a} & (a < x \leq b) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases}$$

で与えられる分布を区間 $(a, b]$ 上の一様分布といい, $U(a, b]$ で表す。

確率統計 A, 2012年5月22日: P.5

定理 2.9

連續型確率変数 X の分布関数 $F(x)$ は, $a < x < b$ において, 狹義単調増加で $F(a)=0$, $F(b)=1$ であるとする ($a=-\infty$ あるいは $b=\infty$ でもよい)。このとき, 確率変数 $Y=F(X)$ は一様分布 $(0, 1]$ に従う。逆に Y が一様分布 $(0, 1]$ に従うとする。このとき $X=F^{-1}(Y)$ の分布関数は F になる。

確率統計 A, 2012年5月22日: P.6

その他の連続型確率分布

1. 指数分布 (Exponential Distribution): 確率密度関数が

$$f(x) = \begin{cases} \lambda e^{-\lambda x} & (x \geq 0) \\ 0 & (x < 0) \end{cases}$$

で与えられる分布をパラメータ $\lambda (>0)$ を持つ**指数分布**といい, $Ex(\lambda)$ で表す.

2. ガンマ分布 (Gamma Distribution): 確率密度関数が

$$f(x) = \begin{cases} \frac{1}{\Gamma(r)} \lambda^r e^{-\lambda x} x^{r-1} & (x \geq 0) \\ 0 & (x < 0) \end{cases}$$

で与えられる分布をパラメータ $r (>0), \lambda (>0)$ を持つ**ガンマ分布**といい, $Ga(r, \lambda)$ で表す. ただし $\Gamma(x)$ はガンマ関数である. $Ga(1, \lambda) = Ex(\lambda)$ という関係式が成り立つ.

確率統計 A, 2012年5月22日: P.13

2.5. 離散型・連続型分布

2.5.2 2次元の場合

確率統計 A, 2012年5月22日: P.14

2 次元確率関数と確率密度関数の性質

- 確率関数 (離散型)

$$(1) f(x_i, y_j) \geq 0, i, j = 1, 2, \dots \quad (2) \sum_{i=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} f(x_i, y_j) = 1.$$

同時分布関数は, $F(x, y) = \sum_{x_i \leq x} \sum_{y_j \leq y} f(x_i, y_j)$

- 確率密度関数 (連続型)

$$(1) f(x, y) \geq 0, \forall (x, y) \in \mathbb{R}^2 \quad (2) \int_{-\infty}^{\infty} \int_{-\infty}^{\infty} f(x, y) dx dy = 1.$$

同時分布関数は, $F(x, y) = \int_{-\infty}^x \int_{-\infty}^y f(u, v) du dv$

$$\left(\frac{\partial^2}{\partial x \partial y} F(x, y) = f(x, y) \right)$$

確率統計 A, 2012年5月22日: P.15

2 項分布の拡張

- 1回の試行で事象 $A, B (=A^c)$ のいずれかが起こりうるものとし, A が起こる確率を p とすると, B が起こる確率は $1-p$ である. このとき n 回の独立な試行で, A が起こる回数を X とすれば, X は 2 項分布に従う.
- 1回の試行で事象 A, B, C のいずれかが起こりうるものとし, A が起こる確率を p_1 , B が起こる確率を p_2 とすると, C が起こる確率は $1-p_1-p_2$ である. このとき n 回の独立な試行で, A が起こる回数を X , B が起こる回数を Y とすれば (X, Y) は 3 項分布に従う.

確率統計 A, 2012年5月22日: P.16

三項分布

- 3 項分布 (Trinomial Distribution):

確率関数が

$$f(x, y) = P(X = x, Y = y) = \frac{n!}{x! y! (n-x-y)!} p_1^x p_2^y (1-p_1-p_2)^{n-x-y}$$

で与えられる分布をパラメータ $n, (p_1, p_2)$ ($0 \leq p_1, 0 \leq p_2, p_1+p_2 \leq 1$) の**3項分布**といい, $M_3(n, (p_1, p_2))$ で表す. ただし, $(x, y) \in D = \{(x, y); x \text{と} y \text{は非負整数}, x+y \leq n\}$

確率統計 A, 2012年5月22日: P.17

2 次元正規分布 (1/2)

- 2 次元正規分布 (Bivariate Normal Distribution)

確率密度関数が

$$f(x, y) = \frac{1}{2\pi\sigma_1\sigma_2\sqrt{1-\rho^2}} \exp \left[-\frac{1}{2(1-\rho^2)} \left\{ \left(\frac{x-\mu_1}{\sigma_1} \right)^2 - 2\rho \left(\frac{x-\mu_1}{\sigma_1} \right) \left(\frac{y-\mu_2}{\sigma_2} \right) + \left(\frac{y-\mu_2}{\sigma_2} \right)^2 \right\} \right]$$

で与えられる分布を**2 次元正規分布**といいう. ここに $-\infty < \mu_1 < \infty, \sigma_1 > 0, -\infty < \mu_2 < \infty, \sigma_2 > 0, |\rho| < 1$.

確率統計 A, 2012年5月22日: P.18

2次元正規分布 (2/2)

$x = (x, y)', \mu = (\mu_1, \mu_2)'$,

$$\Sigma = \begin{pmatrix} \sigma_{11} & \sigma_{12} \\ \sigma_{21} & \sigma_{22} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_1^2 & \rho\sigma_1\sigma_2 \\ \rho\sigma_1\sigma_2 & \sigma_2^2 \end{pmatrix} \quad (\Sigma \text{は対称な正則行列})$$

とおくと、

$$f(x, y) = \left(\frac{1}{2\pi} \right)^{2/2} |\Sigma|^{-1/2} \exp -\frac{1}{2}(x - \mu)' \Sigma^{-1} (x - \mu)$$

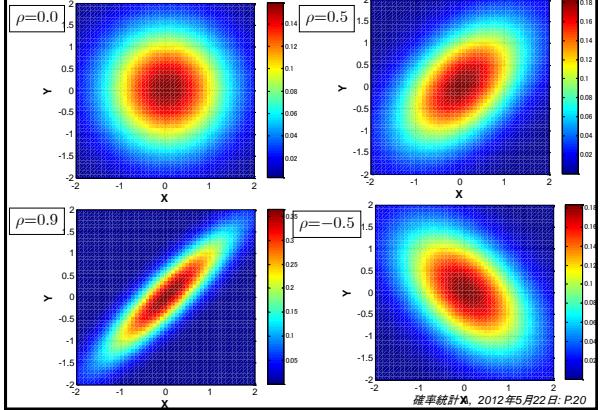
$$= \left(\frac{1}{2\pi} \right)^2 |\Sigma|^{-1/2} \exp -\frac{1}{2}(x - \mu)' \Sigma^{-1} (x - \mu)$$

と書き換えることができるので、 (X, Y) の分布を $N_2(\mu, \Sigma)$

と表す。

確率統計 A, 2012年5月22日: P.19

2次元正規分布の形



確率統計 A, 2012年5月22日: P.20

定理 2.10

(周辺分布)

1. (X, Y) が3項分布 $M_3(n, (p_1, p_2))$ に従うとする。このとき、 X, Y はそれぞれ2項分布 $B(n, p_1), B(n, p_2)$ に従う。
2. (X, Y) が2次元正規分布 $N_2(\mu, \Sigma)$ に従うとする。このとき、 X, Y はそれぞれ正規分布 $N(\mu_1, \sigma_1^2), N(\mu_2, \sigma_2^2)$ に従う。

確率統計 A, 2012年5月22日: P.21

定理 2.10 の証明

定理 2.11

(X, Y) は離散型あるいは連続型で、同時に確率密度関数（または確率関数）および周辺確率密度関数（または確率関数）を $f_{X, Y}(x, y), f_X(x), f_Y(y)$ とする。 X と Y が独立であることと、

$$f_{X, Y}(x, y) = f_X(x)f_Y(y),$$

$$(x, y) \in D = \{(x, y); f_{X, Y}(x, y) > 0\}$$

が成り立つことは同値である。

確率統計 A, 2012年5月22日: P.23

定理 2.11 の証明

確率統計 A, 2012年5月22日: P.24